

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

学校名 海田町立海田西中学校
授業者 大塚 聡子

- 1 日時 平成28年9月29日（木） 第5校時
- 2 学年 第3学年2組 男子14名 女子19名
- 3 題材名 わたしたちの成長と家族・地域
- 4 題材について

（1）題材観

本題材では、中学校学習指導要領技術・家庭（平成20年）において、幼児の発達と生活の特徴を知り、家族の役割について理解すること（A-（3）ア）、幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義を理解すること（A-（3）イ）、幼児との触れ合いを通して、かかわり方を工夫できること（A-（3）ウ）をねらいとしている。

人との関係性が希薄で育ちにくいといわれている現代の中学生にとって、保育園を訪問したり、中学校へ招待したりすることで、実際に幼児と触れ合う機会を持ち、その生活の様子を知ることは、幼児についてさまざまな視点から理解することにつながる。そして、中学生が五感を通して幼児とかかわる体験は、自分の成長を振り返る機会となり、また人間の成長のプロセスの不思議さや面白さを学習することにつながる。さらに、幼児に慕われ信頼される肯定的な感情の体験ができれば、自己肯定感や人とかかわり合う楽しさ、生きる力、地域社会への関心の広がりへつながると考える。

（2）生徒観

本学級の生徒は、「家庭分野が好き」と答える生徒が80%（肯定的回答）おり、全体的に落ち着いて学習に臨んでいる。保育園訪問に関して、楽しみにしていた生徒も多く、遊びの計画や折り紙などの製作も意欲的に取り組んでいた。実際に訪問後、86%の生徒が「楽しかった」と答えている。

その理由として、「自分たちの考えた遊びや製作したものを全力で楽しんでくれ、喜んだときの笑顔がかわいかったから」と言った内容の理由が多かった。「普段、幼児と触れ合う機会がありますか」の問いには、63%の生徒が「ない、あまりない」と答えており、幼児と触れ合う機会が少なくなっていることがわかる。そのためか、「幼児が困っていたら、自分から声かけができますか」の問いに17%の生徒が「あまりあてはまらない、あてはまらない」と回答しており、幼児の状況を十分には理解しておらず、実際に交流になるとなかなか園児に声かけられなかったり恥ずかしがったりする生徒もいることがわかる。

（3）指導観

指導にあたっては、自分の成長を振り返ることによって、幼児であった頃の自分の好きだったものや遊びなどを思い出させ、「身近な」存在であることに気づかせたい。また、遊び道具の製作や幼児との触れ合う活動などの体験的な学習活動を通して幼児に関心を持たせ、幼児とかかわるときにはどのように声かけをするとよいか、ロールプレイ等でイメージを持たせたい。そして、中学生期にある自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせ、自分の成長や生活が家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付かせたい。また、幼児の心身の発達と生活、子どもを取り巻く環境としての家族や家庭の重要性についても理解させる。

5 題材の目標

- （1） 幼児の発達と生活の特徴を知り、家族の役割について理解することができる。（A-（3）ア）
- （2） 幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義を理解することができる。（A-（3）イ）
- （3） 幼児との触れ合いを通して、かかわり方を工夫できる。（A-（3）ウ）

6 題材の評価規準

ア 生活や技術への関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識・理解
幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。

7 本題材において育成しようとする資質・能力

- 【知識】 幼児の生活についての知識
- 【スキル】 新しい課題を発見し、これまでの知識や経験を活用し考えていく解決力
- 【意欲・態度】 体験活動に主体的に取り組む姿勢
困難にぶつかっても投げ出さず、さまざまな角度から解決を図ろうとするチャレンジ精神
- 【価値観・倫理観】 自分の成長を振り返り、現在もこれからも地域社会の一員であるという自覚
他の意見を聞き、受け入れる共感力

8 指導と評価の計画 (全 15 時間)

次	時	学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力の 評価 (評価方法)
			関 心	工 夫	技 能	知 識		
1	1	課題の設定 幼いころを振り返ろう	○				ア 自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付くことができる。 (ノート・観察・振り返り)	
	2 3 4 5	情報の収集 幼児の生活と遊びを知ろう	○		○	○	ア 遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心を持っている。 (計画表・観察・振り返り) イ 幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。(観察・振り返り) エ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 (ノート・観察・振り返り)	・幼児の生活と家族についての知識 (ノート・発表)

2	6 7 8	幼児と触れ合おう（保育所訪問）	○ ○			○	<p>ア 幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもっている。（実習観察）</p> <p>ア 幼児と触れ合う活動などを通して、適切にかかわろうとしている。（実習観察）</p> <p>ウ 幼児の遊びや幼児の発達について、観点に基づいて観察し、整理することができる。（まとめプリント）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動に主体的に取り組む姿勢（実習観察） ・困難にぶつかっても投げ出さず、さまざまな角度から解決を図ろうとするチャレンジ精神（実習観察） ・幼児の生活と家族についての知識（ノート・発表）
	9 10 11	幼児の心身の発達と生活を考えよう				○ ○	<p>エ 幼児の心身の発達の特徴について理解している。（ノート・発表・振り返り）</p> <p>エ 基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性について理解している。（ノート・発表・振り返り）</p>	
3	12	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">整理・分析</div> 幼児との関わり方を考えよう				○	<p>エ 幼児の心身の発達に応じたかかわり方について理解している。（ノート・発表）</p> <p>イ 観察したことを生かしてかかわり方を考え、工夫している。（観察・振り返り）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい課題を発見し、これまでの知識や経験を活用し考えていく解決力（観察・発表） ・他の意見を聞き、受け入れる共感力（観察）
	13 14 15	子どもにとっての家族を考えよう <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ・創造表現</div>				○ ○ ○	<p>エ 幼児の発達を支える家族の役割について理解している。（ノート・発表）</p> <p>エ 基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。（ノート・観察・振り返り）</p> <p>エ 幼児の成長を支援する社会施設や、子どもを守る条約や法律などについて理解している。（ノート・振り返り）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長を振り返り、現在もこれからも地域社会の一員であるという自覚（ノート・観察）
4								

9 本時の学習

(1) 本時の目標

ふれあい体験で幼児が困ったときに、どのように解決するとよいかがわかる。

(2) 観点別評価規準

◎生活を工夫し創造する能力

幼児が困っている場面で、幼児の気持ちを想像し、優しく声をかけるなどの解決方法を考えることができる。

(3) 準備物

保育園訪問時のスナップ ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点（・） ◆配慮を要する生徒への支援	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
導入	1 本時のねらいを確認する。	・本時の学習課題を提示し、幼児が困っているときにどのように声かけをしていくかについて考えていくことが本時の目標であることを説明する。	
	ふれあい体験で幼児が困ったときに、どのように解決するとよいかがわかる。		
	2 保育園訪問を思い出させる	・訪問した保育園名、担当クラス、どんなことをしたか簡単に思い出させる。	
展開	3 保育園訪問を振り返る。	・保育園訪問を振り返り、自分たちがどんなことが困ったか、園児はどんなことに困っていたか課題を見つける。	★新しい課題を発見し、これまでの知識や経験を活用し考えていく解決力（観察・発表）
	4 場面をあげ、解決方法を考える。 [個人]	・課題を解決するために、どのような行動や声かけをすればよいか考える。 ◆乳幼児の心身の発達の特徴を思い出させる。	○幼児の心身の発達についての理解（ノート）
	5 解決方法を参考に、ふれあい体験では、当日、そのように行動すればよいか考える。 [グループ]	・園児が困るのではないかという場面を想像し、その場面に対して、どのような行動や声かけをして解決していけばよいか考える。	
	6 発表する。	・ロールプレイすることで、解決方法を比較する。	★他の意見を聞き、受け入れる共感力（観察）

ま と め	7 学習のまとめ	・振り返りカードに本時のまとめを記入する。	
	<p>めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのやり方がわからないときは、ゆっくりと理解しやすい言葉で声かけするとよいことがわかった。 ・ゲームがうまくできないときは、手本を見せながら示すとよいことがわかった。 <p>A 評価…目線を低くして、ゆっくりと理解しやすい言葉で、笑顔で話しかけるとよいを思うので、ふれあい体験の時 積極的に声かけをしようとする。</p> <p>B 評価…・困っている場面を見かけたら、優しく声をかける。</p>		

(5) 板書計画

本時の目標	ふれあい体験で幼児が困ったときにどのように声かけするとよいかわかる
困ったこと	どのように解決するとよいか
幼児が困っていたこと	<p>本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのやり方がわからないときは、ゆっくりと理解しやすい言葉で声かけするとよいことがわかった。 ・困っている場面を見かけたら、優しく声をかける。。